# 第６回　福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　議事録

日　時：2017年 10月6日（金）9:30-11:30
場　所：福井市役所8階　第2委員会室
出席者：策定委員会　山崎委員長、古石副委員長、小原委員、石丸委員、今村委員、
友廣委員、中嶋委員、長谷川委員、堀内委員、
（欠席）野坂委員、野嶋委員
資 料：議事次第、委員名簿、第６回策定委員会説明資料

---

事務局　■次第１　開会
■次第２　協議事項

事務局　□１.建設候補地についての説明
委員一同　（東公園を建設候補地とする案について、特に異論無し）

委員長　委員会として建設候補地は東公園ということで進めるということでよろしいか。

委員一同　異議なし。

委員長　候補地を東公園として進めさせていただく。

事務局　□２.施設構成について
（１）大ホールの説明
欠席のＡ委員からは大ホール席数については、今日の議論結果に従うという話をいただいており、Ｂ委員からは必要以上に大きいものはいらないのではという意見をいただいている。

Ｃ委員　1200～1400席という提案はあくまで予算面を考えた場合。現場サイドから言えば2000席は最低でも欲しい。フェニックス・プラザも2000席を有するが、なぜ大きなイベントや一流団体の公演が福井に来ないかというと、一回公演では採算がとれないため。2000席以上、2500席くらいになると採算はとれると思う。後世、子ども達に残せるような、他県に誇れる文化会館を望む。専門的に設備を受け入れるということであれば可動式ではだめ。365日必ず皆さんが集まる、ここへ行けば何かあるといった施設をつくるべき。

Ｄ委員　全国規模の大会、フォーラムとなると福井市も人口規模に合わせて2000席が妥当というのが議会の意見。

Ｅ委員　前回、2000席～3000席を議会として提案した。市の財政を考え、国や県からの補助金もほとんど出ない状況下、どれぐらいのものが建てられるのかという意見が議会でも出た。総額どれくらいの金額か示して欲しい。また、新幹線の受け入れ状態が中心市街地の方では整っていないという状況もあり、周辺整備も併せて考えて欲しい。文化会館というとやはり芸術のためのもの。専門的な形のものが当然必要。固定席の方が文化会館としてはふさわしい。

事務局　　諸室の問題、あるいは周辺道路状況やアクセス状況などを考慮し、今後総事業費については詰めていく。類似規模のホールを例に建設単価を出して、概算的に目安として算出させていただきたい。周辺の整備については、今後早急に対策を進めたい。

Ｆ委員　　本格的な演劇をするための装置・設備が整ったものを、という想いがあったので、大きな興行を迎え入れるような施設は必要。しかしその公演が一年に何回できるのか。また今までの利用状況からは学校利用が多く、その利用人数は1000人程度。日常使う1000～1200席程度の席数から大人数の利用にも対応可能とすることで、うまく日常使いと大きな興行とをミックスできるようにしてもらいたい。

Ｇ委員　　グローバル化、国際化社会の中で、今の状態では国際的な会議や興行も行えない。やはり建てる以上は本格的な固定席で、2000席を超えてもいい。中ホールあるいは小ホールは可動席としていただきたい。

委員長　　大ホールは2000席程度かつ固定席とするということで進める。

事務局　　□（２）小ホールの説明
委員長　　まず小ホールは必要か不要か。必要な場合はどの程度の席数が良いか。

Ｃ委員　　小ホールは絶対に必要。600席程度のキャパを持ち、200、300席といった公演にも対応できるフラットで可動式椅子を設けるのがベター。300席では少なすぎる、最低でも600席は必要。小さくすると使い勝手が非常に悪くなる。ある程度柔軟性のある対応の仕方、座席数としたい。

Ｈ委員　　中小ホールは必要。教育活動の発表の場となる会場、文化団体の発表の場、交流の場としても利用できるのではないか。是非作っていただきたい。

Ｇ委員　　是非作っていただきたい。あまり小さくても困る。多目的に使える生活学習館程度のものは欲しい。

Ｆ委員　　最大人数を決めた上で、可動式の席にして必要人数に対応できるような多様な使い方ができると良い。

Ｄ委員　　小ホールはあった方が良いと思うが、他にもやれる場所がある。財政上困難ならば大ホールを中心に考えて、小ホールはアオッサや国際交流会館など他の施設を使う方法も考えられる。

Ｃ委員　　アオッサやフェニックス・プラザの予約は数日並ばないと申し込みができないのが現状。福井市の施設が空いていなければ他地域の施設で行っている。

Ｄ委員　　小ホールについては大ホール並にお金をかけたものが必要なのか、それとも可動式でリハーサル室のようなものでよいのか。

Ｃ委員　　大ホールに匹敵するような性能のものはいらないと思う。

Ｇ委員　　大ホールと同じ舞台の幅でないとリハーサルにもならない。舞台の大きさが中途半端にならないように考慮していただきたい。

委員長　　アマチュアの発表の場としても利用できるもののため、あまり大振りなものでもどうかと思う。柔軟に対応できるような構想のもとで、500席を基準にしてはどうか。

Ｃ委員　　文化団体の集客数を見ると、570～800人のところが大半。最低でも600席は必要。

Ｄ委員　　参考として、木ごころ文化ホールは前半分が移動式のいすで300席、後ろが可動式のいすで300席。全部並べると600席程度だが、全部移動式のいすなら700、800席くらいの規模になる。

Ｉ委員　　運営上同じ施設の中に大ホールと小ホールがあるのは都合が良いと思うが、中心市街地全体で考えたとき、他ホールの活用も考えていくことが必要。富山のオーバードは大ホールのみで運営している。他のところで2000席の大ホール、300～500席程度の小ホールを備えたところもあるが、どのような稼働率でどのような運営をされているのか、参考にしたい。

Ｇ委員　　将来像を見据えてまちづくりをして活性化していかなければならない。コンパクトシティでありながら、いいものもあることを福井から発信していくことが大事。

委員長　　500～600席程度で可動式の席にして、柔軟に席数に対応していくという方向性で進める。

事務局　　□（３）リハーサル室・練習室の説明
委員　　（原案について、特に異論無し）

委員長　　原案通りで進める。

事務局　　□（４）アトリエの説明
Ｇ委員　　駅から近くて発表もしやすいというところは現在2年待ち。駅から近くて発表もしやすいところでのアトリエ整備は要望も出ていると思う。

委員長　　文化施設は賑わいを感じられるものにするべきと思う。こうしたアトリエも十分な内容、質が必要と考える。原案通りで進める。

事務局　　□（５）会議室の説明
Ｃ委員　　会議室の壁は可動式で、取り外しができたりするのか。

事務局　　設計段階の話となる。

委員長　　原案通りで進める。

事務局　　□（６）共用部等の説明
Ｇ委員　　障がい者に優しい施設を前提に。小さいお子さんが来る場合には預かる施設も必要。

Ｃ委員　　現在打ち上げや懇親会の場所がない。是非飲食できるようなスペースを併設していただきたい。

委員長　　原案通りで進める。

事務局　　□（７）施設イメージと諸室一覧の説明

Ｊ委員　　リハーサル室、会議室、練習室などの諸室の備品・設備を整えることでいろいろな利用が考えられるので、検討していただきたい。

事務局　　重ね使いできる諸室を検討し、面積削減や使用率の向上の検討をしていきたい。

Ｉ委員　　設計段階へ入っていく中で、全体面積あるいは事業費の中で精査が必要な部分が出てくる。その中でまた整理をする必要があるのではないか。

委員長　　原案を基本としながら、利用者の利便性をより高める方向での検討を求める。

事務局　　■次第３　事務連絡
　　■次第４　閉会